

向学館通信

2006・4・25

中学生の英語学習はパソコンで

アロクワークという英語学習ソフトを常備しています。単語や構文を覚えるのに最適なシステムです。もっと活用して下さい。クラブ活動などの影響で曜日や時間変更する方は、早めにお知らせください。

考える力を伸ばすために

考えるタイプか、考えないで暗記しようとするタイプかの違いは、小学校5年生になると、はっきり分かれているように思われます。暗記タイプの子は、算数の文章題を考えさせようとしても、自分の頭のなかの記憶箱をさがして、その箱になれば「わからないで当たり前」と考えてしまいます。

他方、考える子は、問題を解く糸口はないか、すでに知っている知識を組み合わせる方法がないか、見方を変えてみるとどうなるか、など、自分の頭を使うことで答えを得ようと努力します。つまり、頭をどんどん使うからますます伸びることになります。暗記タイプでは、頭を使うことがきわめて少ないので、中学生以降になると大きな差がついてしまいます。

以上のことは、塾や学校の先生なら、みんな経験で知っていることです。

暗記タイプの子をそのままにしておくと、学年が上がるごとに成績が低下していきます。なぜなら、上級になればなるほど暗記する量が多くなりすぎて、理解なしには頭に定着しないからです。しかし、小学生の間は、暗記する量も少ないし、暗記が得意な時期でもあるので、暗記タイプはけっこういい成績をとります。しかし、このタイプの多くは、中2ぐらいから成績が落ちはじめます。こうしたことも、どの塾の先生方もご存じです。ところが、その対策となると、ほとんどのところでは手が打たれていないようです。

私どもは、小学校での成績より、先にいって中学・高校とすすむに従って成績が向上していくような基礎力を小学校の間につけたい、と考えています。

このための方法として、小学生の間に、国語の理解力・論理的な思考力をつけたいと考えています。中学生、高校生に対しても、基本的な対策は同じになります。

とはいえ、考えることを嫌うまでになってしまった生徒は、考えるタイプに引き戻すのはきわめて困難だということも、事実です。だからこそ、早めの対策が必要です。

小学生の英語学習をやるなら、国語の強化とあわせて行ってほしい

小学校で英語の授業を行うことが、しだいに「当たり前」のようにいわれる雰囲気になってきました。この問題に対するいろんな知識人の反応が新聞などでたくさん紹介されています。

早期英語学習の賛成者たちは、早いほど慣れやすいというのが最大の論拠です。たしかに、簡単な日常会話の範囲では、この論拠が成立するのは確かです。しかし、英語を強化したい理由として、国際化時代に世界を舞台に活躍する人を育てることがありますが、こうした活躍ができるには、また、別個の要素がたくさん必要になります。単に英会話に早く慣れるというだけでは、到達できない要因が多すぎます。

私の身内の話で恐縮ですが、わたしの甥が数年前、国連の職員になりたいという希望を持ってアメリカへ行きました。3年ほどたって帰国して、次のようなことを話していました。

「英語は話せるようになったけれど、日本人が国際社会でどういう役割を果たしたいのか、とか、日本の誇りにしている文化をどうしてもっと海外に発信しないのか、今の社会でどういうことを解決していきたいのか、など、質問されることがみな高いレベルの知識や思想がなくては答えられない。英語より、こうした勉強をしていなかったので、話すことがなくてしゃべれなかった。アホだと思われたことでしょう。これではダメだと思った。英語が話せるだけでは、むこうでは、肉体労働のバイトにしかつけない。それで、2年間、バイトしていた。」

アメリカで肉体労働のバイトをさせるために英語を習わせるのでないなら、まず、日本語でしっかりとものを考える習慣を養っておくことが必要だと、改めて考えさせられた次第です。